

ノシメトンボ

Sympetrum infuscatum



種名

分類

昆虫綱トンボ目トンボ科

俗称

和名は腹部の黒い斑紋を「熨斗目(のしめ)模様」に見立てたことに由来する。熨斗目とは、江戸時代の武家の礼服に用いられた織物で、仕立て上がったときに腰の部分にだけ縞が現れるものをいう。

形態的な特徴

体長45mm(腹長25~32mm、後翅長28~37mm)ほどで、雌雄ほぼ同じ大きさ。翅の先端に黒褐色の斑がある大型のアカトンボで、とくに西日本産の個体は大型になる傾向が強い。未成熟なうちは、雌雄とも橙色の地色に黒色条斑がある。成熟した雄は、鮮やかな赤色ではなく暗赤色になる。コノシメトンボやリスアカネも翅の先端に黒褐色の斑があり一見よく似ているが、翅胸の斑紋などで見分けることができる。幼虫は、やや緑色を帯びた淡褐色地に複雑な濃色斑のある、体長18~20mm(頭幅5.6~6.3mm)ほどのヤゴである。

分布

北海道、本州、四国、九州に分布する。離島では南千島の国後島、飛島、粟島、佐渡島、淡路島、隠岐、見島、壱岐、対馬、天草諸島、甌島列島などに分布する。

繁殖行動

成虫は6月から10月頃まで見られる。羽化後の未成熟個体は羽化水域を離れ、丘陵地や里山の林などに移動する。9月下旬頃から成熟した雄が水辺に姿を見せ、岸辺の植物などに止まり縄張りを張る。交尾はふつう植物などに止まっておこなわれ、その後、雌雄が連結したまま挺水植物の繁茂した水域や、稲穂の実った水田の上空を草丈すれすれを飛びながら、卵をばらまくように連続打空産卵をする。秋に産卵された卵は卵のまま越冬し、翌年の春に孵化して幼虫となり、初夏に羽化して成虫となる。

生息場所

おもに平地から低山地の、水際に植物が繁茂する水深の浅い開放的な池沼や水田などに生息する。幼虫は水底の植物性沈積物の陰に潜んで生活している。周辺に林地を有する水田環境で普通に見られ、個体数も多い種であるが、地域的にはまったく見られない場所もある。

生息環境への配慮事項

発生水域から遠くに移動しないため、未成熟個体が成熟するまでを過ごす林地が必要であり、水域と周辺林地を組み合わせた環境を保つ必要がある。

引用文献：http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html